

広州日本人学校便り

～平成26年11月号～



～ 中国伝統文化鑑賞会 ～

本校PTA研修委員会主催の中国伝統文化鑑賞会が、授業参観に合わせた9月20日(土)に催されました。

今年度は佛山市南海黄飛鴻中聯電纜武術龍獅協會の演舞による獅子舞・中国伝統武術でした。今回演舞を披露した団体は、あのジャッキー・チェンの出世作として有名な映画「酔拳」の实在のモデルとなった黄飛鴻(1847～1924)の武術伝統を受け継ぐ由緒ある武術協会とのことです。獅子舞は広東省佛山県の武術拳法家が獅子退治した時の模様を舞踊にした南方獅子舞であり、中国武術「功夫(カンフー)」を基礎にした勇猛で華麗な舞が特徴でした。また、演舞したカンフーは「洪拳」という一つの種類のものでした。

当日は、中国にいても普段は目にする機会が少ない中国のアクロバティックな獅子舞を楽しんだり、中国伝統武術であるカンフーの迫力に圧倒されたりと、中国の伝統的な文化を肌で感じる事ができた鑑賞会となりました。獅子舞や武術の演舞を初めて目にする子どもも多く、楽奏の賑やかさや衣装の派手さ、動きの豪快さは、子どもたちの目を釘付けにし、「おお!」というどよめきや「すごい!」という感嘆の声が聞こえてきました。また、二人で演じている獅子舞の華麗な動きやまるで生きているような強烈な技に最初は怖々だった子ども、慣れてくるに従って、ユーモラスな仕草などに親しみも感じたようでした。

鑑賞会の後半では、獅子舞と楽奏の体験が行われ、先生と子どもたちの代表が参加しての演舞・演奏が行われました。初めは緊張で動きもぎこちなかったのですが、盛り上がる会場の雰囲気におされ、次第に獅子や演奏者になりきり思い切り体を動かしていました。また、武術協会によるカンフー教室も行われ、多くの児童・生徒が参加して、カンフーの型を習いました。見よう見まねでポーズを決めながらも、その動きの複雑さに「難しい!」という声が聞かれました。

保護者も、演舞を見て同じように楽しむことができたようです。しかしそれ以上に、楽しそうに目を輝かせて鑑賞する純真な子どもの姿を微笑ましく見る事ができたことが良かったのではないのでしょうか。

大変に盛り上がりを見せた中国伝統文化鑑賞会となり、おそらく演舞者も気持ちよく演技することができたものと思います。準備に奔走して下さったPTA研修委員の方々に感謝いたします。

